

水戸の偉人

<sup>い</sup>井

<sup>さ</sup>土 <sup>か</sup>坂

<sup>な</sup>道 <sup>お</sup>

<sup>も</sup>と <sup>と</sup>幹



## 目 次

### 1 研究を始めたきっかけ

### 2 研究の進め方

### 3 研究内容

#### (1) 井坂直幹さんについての資料を探す

- ① インターネットで調べました
- ② 秋田県出身の方にインタビューしました
- ③ 秋田県の井坂直幹記念館から資料を取り寄せました
- ④ 鹿島神社に行って現地調査をしました
- ⑤ 渋井町に住んでいる方にインタビューしました

#### (2) 照山洋さんに井坂直幹さんについてお話をうかがう

### 4 研究してわかったこと（まとめ）



上大野小学校の井坂直幹コーナーにて



## 1 研究を始めたきっかけ

私たちは上大野小学校で「上大野チャレンジ教室」に参加しています。放課後に自分たちが調べたいことを自分たちで調べるものです。この時間に私たちは水戸の歴史について調べていました。その時に井坂直幹（いさか なおもと）という、私たちが住んでいる上大野（旧上大野村…現水戸市渋井町）で生まれた素晴らしい人物がいることを初めて知りました。また、渋井町にある鹿島神社に井坂さんの残した鳥居があることも知りました。私たちが住むこの上大野で生まれた人なのに、あまり知られていない人なのでどんな人なのか気になり、調べてみようと思いました。

## 2 研究の進め方

- (1) 井坂直幹さんの資料を探す。
  - ① インターネットで調べる
  - ② 秋田県出身の方にインタビューをする
  - ③ 秋田県の井坂直幹記念館から資料を取り寄せる
  - ④ 鹿島神社（水戸市渋井町）に行って現地調査をする
  - ⑤ 渋井町に住んでいる方にインタビューをする
- (2) 照山 洋さんに井坂直幹さんについてお話をうかがう。
- (3) これらをもとにして井坂直幹さんについて考える。

## 3 研究内容

### (1) 井坂直幹さんについての資料を探す

#### ① インターネットで調べました

井坂直幹さんは、徳川による幕藩体制が崩壊しようとしていた江戸時代末期に水戸藩（水戸市渋井町…旧上大野村）に生まれました。

やがて明治維新となり、新時代の空気を敏感に感じた直幹さんは、茨城師範学校長・松本直巳のもと洋学を学び、慶応義塾へ入学し福沢諭吉に学んで主席で卒業しました。

その後、直幹さんは、材木会社の秋田県能代支店長となり能代に赴任しました。イギリスから新式の製材機を購入し機械製材工場を設立、材木は飛ぶように売れ、秋田杉の名を全国にとどろかせました。直幹さんは「木都能代の父」と呼ばれるほどになったのです。



井坂 直幹さん  
(照山洋さんの資料より)

## 【井坂 直幹さんの一生】

### ○『生まれ』

江戸時代の万延(まんえん)元年(1860)茨城県水戸市(渋井町)生まれ。幼名を亮太郎といたしました。

### ○『青年時代』

13歳の頃から水戸学(江戸時代に水戸藩でおこった学問)を学び、15歳で当時水戸の秀才達が学んだ「自彊舎(じきょうしゃ)」という塾に入りました。その後、水戸の「彰考館(しょうこうかん)」で大日本史の編さんの仕事をするようになった直幹は、昼は彰考館で編さんの仕事、夜は自彊舎に通う毎日でした。その間もまた、先生を求めて英学を勉強し、新しい時代への準備をしっかりとしていました。英学の勉強を進めているうちに欧化主義に賛成するようになり、自彊舎の人たちとの交わりも絶つことになり、彰考館も辞職するという苦しい立場に立ってしまいました。直幹は悩みの末、東京での遊学を決意しました。

しかし、家にはお金がなかったため、直幹は、親友を通して、英学の先生であった水戸師範学校の校長松木直己に相談しました。その頃松木は、自分の師である福沢諭吉から時事新報発刊について、将来記者にむく文才のある青年を頼まれていたので、直幹ら4人を福沢諭吉のところに送りました。こうして直幹は、慶應義塾で学ぶことになったのです。2年半にわたる慶應義塾を優秀な成績で卒業した直幹は、明治17年福沢諭吉が発行していた時事新報に入りました。そうしているうちに、東京の大倉喜八郎という人と知り合い、明治20年「日本土木会社」へ社長秘書として入社しました。

### ○『実業界への道』

その後、大倉喜八郎の大倉組と久次米商會が資本金を出して、と東京に林産商會が設立されました。その1年後に直幹は、能代に支店長として赴任しました。

### ○『自分の会社をつくる』

直幹は、久次米商會の後を受け継いで、「『能代材木合資会社』」をつくって独立しました。明治30年のことです。同じ年に能代挽材合資会社をつくり、材木合資会社で資材の調達を行い、挽材合資会社で加工や販売を行いました。

### ○『会社の成功』

機械一台で木挽百人の仕事に匹敵すると言われたイギリス製の最新式機械4台をはじめ、数々の機械を整え、能代の人をおどろかせました。その後、直幹の事業はますます発展し、

明治34年に秋田製材合資会社をつくり、明治40年には、秋田製材合資会社と能代材木合資会社、能代挽材株式会社の3社を合併して、東洋一といわれる「秋田木材株式会社」が誕生したのです。「秋田木材株式会社」は、その後も発展につぐ発展を続け、秋田支店はもとより青森、東京、大阪、九州、北海道にも支店を置いて事業を行った他、満州、樺太、朝鮮にまで進出していきました。その根拠地は、米代川河畔の広大な敷地にあり、林のように立ち並ぶ工場の煙突など、その誇らしげな姿は、名実共に東洋一の木材工場にふさわしいものでした。

## ○ 『直幹の死』

直幹は大正10年7月26日、60歳で惜しまれながらその一生を能代で閉じました。

## 《井坂直幹さんの一生を調べて思ったこと》

井坂直幹さんは、あの1万円札に印刷されている有名な福沢諭吉から学ぶことを機に、会社に就職したり、自分で社長になったりと、どんどんすばらしい人生になっていったと思います。それは、ずっと勉強をがんばって、新しい世の中を作っていこうとする自分の考えを、しっかりともったからだと思います。

## ○ 井坂直幹さんが生きた秋田県能代市とは？

秋田県の地図を見ると、能代市は日本海に面していて、県の中でも北の方の青森県寄りにあります。あの有名な世界遺産の白神山地も近くにあるように、周りは山に囲まれていて、自然豊かな場所であり、米代川の河口に広がる町です。

能代市の花は桜、そして能代市の木は黒松と秋田杉です。木材業が盛んで、「木都能代」と言われた歴史があります。



秋田県

## ○ 秋田杉とは？

秋田杉は、年輪の幅がそろっていて木目が細かく美しい特徴があります。また、伸縮性が少ないためくるいが小さく、耐久性もあるという優れた性質をもっています。このため秋田杉は、建築材料や家具の材料など、幅広く利用されました。明治になって、板に製品化された木材は、東京・大阪などの大都市建設で需要が伸び、井坂直幹さんのつくった「秋田木材株式会社」は、当時としては破格な規模の工場をもち全国に販売網を広げました。そのため「木都能代」と言われたのです。

## ② 秋田県出身の方にインタビューをしました

次に、私たちの身の回りにいる秋田県出身の方にインタビューしてみたいと思いました。インタビューの内容は次の5点です。

- ア 井坂直幹さんを知っていますか？
- イ 小学校の授業で、井坂直幹さんを勉強しましたか。
- ウ 秋田県の方から見て井坂直幹さんは、どういう人ですか。
- エ 井坂直幹祭を知っていますか。また、見たことがありますか。
- オ 井坂直幹さんが、水戸で生まれたことを知っていますか。

お母さんの職場に、秋田県出身の方が何人かいるのでインタビューをしました。残念ながら井坂さんのことを知っている人はいませんでした。研究を始めたばかりのときだったので、残念でした。それで、秋田の井坂直幹記念館へ電話をしてみました。

## ③ 秋田県の井坂直幹記念館から資料を取り寄せました

秋田県能代市にある「井坂記念館」に電話して、井坂直幹さんについての資料を送ってくれるようお願いしたところ、秋田県文化財保護管理指導員の小林喜兵さんが、たくさんの資料を送ってくれました。「井坂直幹略伝」「木都能代」「井坂直幹と木都能代」などのパンフレット等を送ってくれたので、大変勉強になりました。

井坂記念館は、井坂直幹さんの家があったところに建ててあるそうです。

## ④ 鹿島神社（水戸市渋井町）に行って現地調査をしました

鹿島神社（水戸市渋井町）に井坂直幹さんと直幹さんの父（幹 もとい）が建てた鳥居の一部が残っています。東日本大震災のときに崩壊しましたが、渋井町自治会の方が、渋井町出身の明治の偉人である井坂直幹父子の奉仕への感謝と郷土への無限の想いを後世に伝えるために、崩壊した鳥居の一部（鳥居の柱の部分だけ2本）を有形の記念建造物として残したものです。その鳥居には、直幹さんと直幹さんの父の名前も刻まれています。鹿島神社の近くに住んでいる方々が協力して、直幹のことを書いたパネルも立っています。そこについて現地調査をしました。



調査に行った鹿島神社 (g o o 地図より引用)





地震でこわれてしまう前の鳥居です。井坂直幹さんが建てたものです。



新しい鳥居も建てられました，前の鳥居の柱が残っています。



正面から向かって左にある前の鳥居の一部。直幹の父，井坂幹の名前が刻まれている。



正面から向かって右にある前の鳥居の一部。井坂直幹の名前が刻まれている。



鳥居のすぐ近くにある井坂直幹の一生が書かれたパネル。水戸市の教育委員会が建てたもの。

郷土の先人 井坂直幹

井坂直幹は、万延元年（一八六〇）年、水戸藩士・井坂幹の長男として、茨井村（現在の水戸市浪井町）に生まれた。幼少から儒学を学び、水戸彰考館の勤務を経て、明治十四（一八八一）年に慶應義塾に入學し、福澤諭吉の教えを受けて首席で卒業した。

卒業後、直幹は東京新報社、日本土木会社を経て、明治二十二年（一八九九）年に林産商會能代支店長として秋田県能代に赴いた。翌年の林産商會解散後も能代で木材業の発展に尽力し、明治四十一年（一九〇七）年、秋田木材株式会社を創立した。直幹は西洋の製材技術を導入し、能代は「東洋一の木都」と呼ばれるほど飛躍的に成長し、秋田杉の名を全国に轟かせた。直幹は本都能代の父と呼ばれ、大正十一年（一九二一）年に六十歳で亡くなった。

現在、ここ鹿島神社には直幹が奉納した鳥居が残り、故郷の水戸を直幹が終生大切にしていたことが偲ばれる。



## ⑤ 渋井町に住んでいる方にインタビューしました

鹿島神社に現地調査に行ったとき、神社の隣に住んでいる萩野谷純子さんに井坂直幹さんについてお話を聞かせていただきました。

Q 渋井町の人達にとって、井坂直幹さんはどんな人ですか？

A 昔から有名な人だと母から聞いています。(母は、祖母から話を聞かされてきました。) 祖母に子どもが生まれたとき、直幹さんの幹の字をいただいて、幹雄と名前を付けたりするほど、誰もが尊敬していました。私も、誇りに思っています。

Q 井坂直幹さんの家は、どこにあったのですか？

A 残念ながらわかりません。井坂の名字の家が今でもありますが、そこではありません。家族はみんな東京に行ってしまったので、お墓も東京にあるそうです。

Q 井坂直幹さんに兄弟はいましたか？

A たくさんいたそうです。みんな優秀で勉強がよくできたと聞いています。

5歳年下の弟は、茨城の電気王として有名な前島平さんです。

(輝く茨城の先人たち…67ページに書かれている)

水力発電所や火力発電所を作って茨城県で初めて電灯を灯し、電気を県全域に広めることに力を尽くした人です。養子に行ったので名字が違いますが、井坂家の二男です。そのほかの兄弟も、東京大学に進学するなど優秀だったそうです。

Q 鹿島神社に鳥居が建ったときの様子は聞いていますか？

A 秋田県能代市で成功した井坂さんが故郷に戻ってきて、鹿島神社に鳥居を建ててくれました。鳥居が建ったときは、みんな喜んでたくさんの人が集まりにぎやかだったそうです。井坂さんが、故郷に錦を飾ったということです。

Q 井坂さんについてもっと詳しい人はいますか。

A 照山さんに聞いてみてはどうですか。照山さんは能代まで行かれて、井坂さんについて調べてこられたそうですよ。

私たちは、萩野谷さんが教えてくださった照山さんにお話をうかがうことにしました。



写真の一番左に映っている方がインタビューに答えてくれた萩野谷純子さんです。右端は、純子さんのお母さんです。



## (2) 照山洋さんに井坂直幹さんについてお話をうかがう

水戸地区防犯連絡員協議会会長の照山さんは、上大野小学校のあいさつ運動に毎月協力いただいている方です。井坂直幹さんが生まれて育った渋井町に住んでいる照山さんは、秋田まで行って井坂さんのことを調べ、井坂さんのパネルを作るために力を尽くした人です。井坂さんが、秋田では人々に神様のように大切にされていることを知り、同じ町で生まれた直幹さんを誇りに思っているそうです。



照山洋さんにインタビュー  
(上大野小校長室にて)

Q 小さいときから井坂直幹さんのことを知っていましたか。また、渋井町の人々は、井坂さんのことを知っていますか。

A 子どものころは、よく分からなかったけれど、神社の役員をやるようになってから、少しずつ分かるようになり、とても興味がでてきました。渋井町の人も、知っているのは一部の人だけです。みんな「ちょっかんさん」と呼んでいました。

Q 井坂さんのパネルができた時は、どんな気持ちでしたか。

A パネルは、井坂さんのことをいろいろと調べて作りました。出来上がったときは、とてもうれしかったです。何十年も残る丈夫なものを作りたかったです。これで多くの人に見てもらえると思い、うれしかったです。井坂さんのことを、とても誇りに思っています。

Q 鳥居を残そうと考えたのは、誰ですか。

A その頃の神社の役員の人たちです。私も、ぜひ残すべきだと主張しました。秋田のテレビ局が、井坂さんのことを番組で取り上げるために電話をかけてきたときは、鳥居は東日本大震災で壊れたままでした。全部壊して片づけなくてよかったと思いました。秋田の人にも、渋井町の人々が井坂さんのことを大切に思っていることを知ってもらいたいです。

Q 秋田県に行ったそうですが、能代市では井坂さんのことを、どのように思っているのでしょうか。

A 秋田県では、井坂さんのことをとても大切にしています。総合的な学習の時間の中で、郷土の偉人として小学生も中学生も学習しています。

また、井坂さんの生まれた「上大野」のことも大切に思っているそうです。

Q これから井坂さんのことを、後世にどのように伝えていこうと思っていますか。

A 平成17, 24, 26年に、地域の歴史についての本を出しています。最初に書いた本を読んだ人の中から、井坂さんのことをもっと知りたいと言う人がたくさん出てきました。そこで、後世に残すためにいろいろと調べて、さらに2回、本としてまとめました。本も大切ですが、あなたたち2人のような若い人たちと話ができることが一番うれしいです。

#### 4 研究してわかったこと（まとめ）

(1) 井坂直幹さんのことを調べてみて、私たちがまず初めに思ったことは、井坂さんはとても素晴らしい人だということです。よく勉強をし努力して慶應義塾を首席で卒業したり、大きな会社を作ったりしたことは、だれにもできることではありません。こんな素晴らしい人が、自分たちと同じ上大野で生まれ育ったことは、地域の方が話していたように私たちの誇りでもあります。努力をすれば立派な人になれることを、わたしたちは井坂直幹さんから学び、これからの生活に生かしていこうと思います。

(2) 次に私たちが考えたことは、地域の素晴らしい人の生き方ややってきたことを、次の世代に伝えていかななくてはならないということです。

私たちは、井坂直幹さんと同じ上大野で育ったのに、今まで井坂さんのことを知りませんでした。鹿島神社に井坂さんのパネルができたことも知らなかったです。

今回井坂さんを調べてみて、井坂さんが大変な努力をして能代の町を豊かにしてきたことや、能代の人たちにとっても尊敬されていることを知りました。でもそれは、調べてみて初めて分かったことです。分かったことを周りの人にも伝えていかないと、知っている人がだれもいなくなってしまう。井坂さんの残した素晴らしいことから、私たちは学ぶことがたくさんあるのに、何も学べなくなってしまう。インタビューに協力してもらった照山さんも、井坂直幹さんのことを後世に伝えるために、本に書いたり、パネルを作ってもらったりしていると言っていました。私たちも、自分たちができることを考えてみました。今すぐにできることは、まず上大野小学校のみんなに井坂直幹さんのことを、知らせることです。そのために、私たちは、上大野小学校の中央廊下に、『井坂直幹さんコーナー』を作ってみました。少しでもたくさんの人に、井坂さんのことを知ってもらいたいと思っています。

(3) 最後に私たちができることは、今、地域の素晴らしい伝統やよい取組などについてよく学ぶということです。渋井町のみなさんが井坂さんの鳥居を後世に残そうとしたように、私たちも「よいものを大切にしていこうとする心」と、「地域を学ぼうとする心」をもたなくてはなりません。よく知らないといつの間にか忘れてしまったり、大切なものをこわしてしまったりするかもしれません。よく知って学ぶことが大切だと思います。これからも、地域の大切な人やものなどを大切に、勉強していきたいと思っています。